

ニ ュ ー ス レ タ ー

明治大学史



Vol.6

31. MAR 2009

Center for the History of Meiji University Newsletter



明治大学戦没学徒関係資料調査。南九州市知覧町・知覧平和公園内の三角兵舎。特攻隊員は半地下壕の兵舎で寝泊まりしました。

ニュース・ヘッドライン

特集 2008 年度調査報告

- I 創立者及び創立期関係者 II 三木武夫関係
- III 人権派弁護士関係 IV 明治大学戦没学徒関係
- V 利光鶴松・木村礎関係 VI 山村一郎関係
- VII 学内資料関係

センター業務記録 2008年10月～2009年2月

新聞・雑誌掲載等記事一覧

大学史資料センター刊行物案内

大学史紀要第13号 人権派弁護士研究Ⅱ／大学史資料
センターグループ報告第30集 大学史活動／布施辰治
著作集（ゆまに書房）／尾佐竹猛研究（日本経済評論社）

特集 2008年度調査報告

センターでは明治大学史に関する様々な調査・資料収集活動を行っています。ここで蓄積した資料を基礎として成果物等を発表したり、展覧会を開催しています。

本号では2008年度に実施されたおもな調査をご紹介します。

I 創立者及び創立期関係者

岸本辰雄関係資料調査〈2008 年 6 月 23（月）～25 日（水）米子市立山陰歴史館（鳥取県米子市）・泉龍寺（同日野郡日野町）・鳥取県立博物館・鳥取市歴史博物館（以上同鳥取市）〉

昨年度調査（本誌 vol.4 既報）に引き続き、明治大学創立者・岸本辰雄（1852-1912）の鳥取藩士時代の活動について調査を実施しました。

まず米子市立山陰歴史館にて、本圀寺事件（尊王攘夷派による藩内保守派暗殺事件）に関わった大西清太（新国隊幹部）および「20 士」



『切磨集』（米子市立山陰歴史館所蔵）

関係資料、佐々木謙旧蔵資料（米子・境港・淀江等の地方史料写や近隣の地方史研究成果等）、そして関係書籍類を閲覧・撮影しました。

続いて泉龍寺において 20 士による書、軸、武具等関係資料を調査しました。同寺のある日野郡では昭和初期に 20 士顕彰運動が行われました。同寺住職はその運動のリーダー役を務めました。同寺住職からDVD「幕末の若獅子因幡二十士伝」の寄贈を受けました。

最後に鳥取県立博物館所蔵の「鳥取藩政資料」の慶応 4 年から明治 2 年前半における岸本辰雄記載資料及び新国隊関係資料の閲覧及び写真撮影を実施しました。

（阿部裕樹）

*カッコ内は調査者

II 三木武夫関係

①三木武夫関係資料調査〈2008 年 8 月 4 日～6 日〉 長尾啓太郎家（徳島県徳島市）・土成中央公園・三木武夫生家・土成町郷土資料館・真言宗神宮寺（以上、同阿波市）・鳴門市役所秘書広報課（同鳴門市）・三木武夫国際交流センター（同徳島市）

センターでは 2004 年に三木睦子氏から三木武夫元首相関係資料の寄贈を受けたことを契機として、継続的に三木元首相の調査を行っています。センター内に設けられた明治大学三木武夫研究会（研究代表・小西徳應政治経済学部教授）は、今年徳島での現地調査を実施しました。

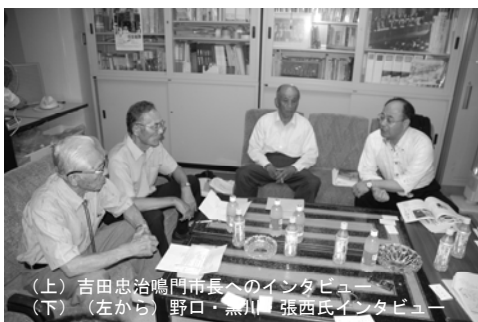
初日は徳島の長尾啓太郎家を訪ねました。長尾氏の祖父である長尾新九郎（元徳島市長）は明治大学雄弁部で三木の先輩にあたり、三木の海外留学の手助けをし、その後も三木に大きな影響を与えた人物です。同家には三木が長尾とともに最初の海外雄弁旅行（1929 年）をした際の写真・新聞・16 ミリフィルムなど様々な資料が残されています。併せて長尾啓太郎氏から三木と祖父・新九郎の深い関係についてお話をうかがいました。

翌日は三木の故郷である土成町を訪ねました。土成中央公園の三木武夫胸像を見学後、土成町郷土資料館にて、大野利夫氏（校友・大野孔夫元土成町長弟）、島田健作氏（高橋紀世子氏元秘書）、佐々木堅二氏（校友・佐々木建設株式会社監査役）、木内千春氏（校友・アポロペーカリー社長・東京で三木家に止宿）、樫原伸氏（校友・徳島県協同肥料株式会社代表取締役社長）、佐藤吉子氏（土成支所支所長）など三木と縁の深い皆様にお集まり頂き、各種の情報交換を行いました。その後、三木の墓所がある神宮寺にて、住職のお話を伺った後、研究会のメンバーで墓参をしました。

最終日は三木と徳島県政との関わりを知るため、徳島において三木と近い関係にあっ

た政治家の皆様へのインタビューを実施しました。午前中に鳴門市役所にて、吉田忠志氏（鳴門市長、元三木秘書）に対して聞き取りを行いました。

午後は、張西五六氏（三木理念を新世紀へつなぐ県民の会会長 元日和佐町（現美波町）町長）、野口明男氏（元吉野町（現阿波市）町長）、黒川勉氏（元徳島県議・三木理念を



新世紀へつなぐ県民の会幹事長）の皆様、三木との長い交流について語っていただきました。

なお本調査においては終始徳島三木事務所島田健作様に多大なご支援を頂戴しました。また校友会徳島支部役員の皆様にも多大なご援助を賜りました。ここに篤く御礼申し上げます。

（小西徳應・間宮勇・秋谷紀男・川島高峰・竹内桂・矢野雅子・村松玄太）

②三木武夫関係資料調査（2008 年 11 月 12 日（水）～14 日（金）阿波市土成支所・阿波図書館土成分館倉庫・稲垣豊久家（以上、徳島県阿波市）長尾啓太郎家・徳島市立徳島城博物館・財団法人徳

島新聞社（以上、徳島県徳島市）、兵庫県立尼崎北高等学校）

三木の幼少・青年期の資料は十分残されていません。いままでその収集が課題となっていました。本調査では、三木の明治大学入学以前に焦点を絞って調査を実施しました。佐藤吉子氏（土成支所支所長）のご協力で『土成町史』編集当時の関係者の方に情報を提供していただきました。また三木の小学校時代の担任である稲垣豊重のご子息にあたる豊久氏に、三木の勉学の様子や三木の両親について種々お話を伺いいたしました。

翌日は長尾啓太郎家所蔵の貴重な資料をお借りし、徳島城博物館にてマイクロ撮影及びフィルムのデジタルデータ化を実施しました。その間に徳島新聞社にて戦前の「徳島日日新聞」「徳島毎日新聞」（いずれも「徳島新聞」の前身）のマイクロフィルムを閲覧し、三木武夫関係記事等の掲載について調査しました。最終日は三木が徳島商業を退学後通った中外商業学校の後身となる兵庫県立尼崎北高等学校にて、三木揮毫扁額や『創立八十周年記念誌』を閲覧しました（屋島哲也教頭・林秀樹教諭対応）。

（鈴木秀幸・村松玄太）

③岩野美代治氏インタビュー調査（2008 年 7 月 29 日（火）・2009 年 1 月 28 日（水）赤坂エクセルホテル東急（東京都港区）、明治大学伊藤紫紺ホール等）

④國弘正雄氏インタビュー調査（2009 年 2 月 19 日（木）国際文化会館（東京都港区））

本共同研究においては三木関係者へのインタビューを調査の重要な柱として実施しています。今年度半ばまでは夫人の三木睦子氏にロングインタビューを実施してきましたが（本誌 vol.4 既報）、現在は長い間にわたって三木を親しく支えてこられた方々にお話をうかがっています。

岩野氏は三木の公設秘書として長くご活動されてきました。岩野氏のお話は間近で三木を支えてこられた方ならではの詳細をきわめた内容



國弘正雄氏へのインタビュー

で、三木の共同研究にとってきわめて役立つものでした。また、同氏は秘書時代の貴重な資料の数々も提供して下さいました。

「同時通訳の神様」としても知られる國弘氏は三木のブレインとして政務秘書官・環境庁特別調査官・外務省参与をつとめました。

國弘氏からは三木の外交に関して数多くの貴重なコメントをいただきました。

いずれも 3 時間を越えるロングインタビューでしたが、岩野・國弘両氏とも熱を込めて三木への尽きぬ思いをお話し下さいました。

(同)

III 人権派弁護士関係

①布施辰治関係資料調査〈2008 年 7 月 29 日（土）～31 日（月）石巻文化センター等（宮城県石巻市）〉

センター共同研究プロジェクトとして実施されている人権派弁護士研究会（研究代表・山泉進

法学部教授）のメンバーは、昨年に引き続き、石巻文化センターに所蔵されている布施辰治関係文書の閲覧・複写作業を実施しました。

その際庄司捷彦氏（布施辰治顕彰会）と情報交換をし、『詩による弁護士布施辰治との対話』を受贈しました。

（山泉進・村上一博・長沼秀明・飯澤文夫・中村正也・阿部裕樹）

②山崎今朝弥関係資料調査（センター合同合宿）〈2008 年 8 月 2 日（土）～3 日（日） 蚕糸博物館・岡谷図書館・岡谷市川岸地区（以上、長野県岡谷市）・長野地方裁判所・諏訪市立高島小学校（以上、長野県諏訪市）

センターでは布施とともに人権派弁護士として活動した山崎今朝弥（1877-1954）について継続的な調査を進めています。今回はセンター合同合宿として、山崎の故郷である長野県岡谷・諏訪市周辺を巡見・調査しました。



山崎今朝弥

初日は最初に岡谷市の蚕糸博物館を訪ね、諏訪地方における近代蚕業史について調査しました。続いて岡谷図書館にて、山崎と信州との関わりについて研究会を開催しました。その後山崎の生誕地である同市川岸地区にて、山崎今朝弥生家の現当主・山崎勝氏のご案内で墓所を巡



石巻文化センターでの調査風景



川岸地区巡見の様子（右端山崎勝氏）

見しました。ほかに山崎のエピソードが残されている新倉十五社を巡見しました。

翌日は諏訪市に場所を移し、山崎の通った学校（高島小学校）、弁護士事務所跡、裁判所跡などを巡見しました。

本調査の様子は「長野日報」「岡谷市民新聞」にて報じられました。

（別府昭郎・山泉進・吉田悦志・村上一博・秋谷紀男・鈴木秀幸・飯澤文夫・永代達三・村松玄太・阿部裕樹）

③布施辰治関係資料調査〈2008 年 11 月 21 日（金）～23 日（日） 新潟県立図書館・文書館・新潟市立豊栄図書館・豊栄博物館・同分館「横井の丘ふるさと資料館」（以上、新潟県新潟市）・新発田市立図書館（同新発田市）〉

本調査は、布施辰治の新潟県小作関係裁判資料（石巻）の位置づけを探るものです。主として木崎村小作争議関係の文献・史料（特に裁判関係）の閲覧収集と史跡見学を目的としています。

本調査において閲覧・複写した資料は下記の通りです。

【文献】

- ・『新潟県北蒲原郡是』北蒲原郡役所、1916
- ・『新潟県農地改革史』同刊行会、1957、復刻版全7巻・不二書房、1991
- ・『新潟県警察史』新潟県警察本部、1958
- ・『農地制度資料集成』第2巻、お茶の水書房、1969
- ・『新潟県百年のあゆみ』新潟県、1971
- ・川瀬新蔵『木崎村農民運動史』非売品、1972
- ・三宅正一『幾山河を越えて（自伝）』恒文社、1976
- ・橋本辰治『木崎争議回顧録』（上下）非売品、1977
- ・『新発田市史』下巻、新発田市、1981
- ・『紫雲寺町誌』紫雲寺町役場、1982
- ・山岸一章『発掘 木崎争議』新日本出版、1989
- ・『豊栄市史』通史編、豊栄市、1998
- ・『図説新発田・村上の歴史』郷土出版、1998
- ・木間恂一＝溝田敏磨編『新潟県の百年と民衆』野島出版、1999
- ・『新発田今昔写真帖』郷土出版、2002
- ・星野建士『紫雲寺湯と江戸時代』自然食通信社、2006 ほか

【史料】

豊栄博物館・同分館「横井の丘ふるさと資料館」
木崎村小作争議事件裁判資料（井伊誠一弁護士寄贈分）

（参考；大原社研「木崎村暴力行為脅迫事件」6冊3ファイル）

新潟県立文書館

木崎村農民運動（小作争議）関係文書

井伊誠一弁護士旧蔵刊行物

【史跡】

木崎村小作争議記念碑、無産農民学校跡

新潟地方裁判所新発田支部、新発田警察署

（村上一博）

IV 明治大学戦没学徒関係

①嶋清一関係資料調査〈2008 年 8 月 7 日（木）～8 日（金） 和歌山県立向陽高等学校（和歌山県和歌山市太田）、甲子園球場史料館（兵庫県西宮市）〉

野球好きの方なら嶋

清一（1920-1945）の名前をご存じだと思います。『巨人の星』の主人公・星飛雄馬のモデルともいわれる嶋は、和歌山・海草中学（現和歌山県立向陽高等学



嶋清一（野球体育博物館提供）

校）野球部で豪腕投手としてなりました。1939（昭和 14）年の第 25 回全国中等学校優勝野球大会（夏の甲子園）では全 5 試合を完封、準決勝と決勝ではノーヒット・ノーランという快挙を成し遂げました。嶋は同校卒業後、明治大学に進学し野球部主将を務めます。

しかし 1943 年、戦局の悪化にともない東京六大学野球は中断し、嶋も学徒出陣により海軍に応召されることとなりました。

戦争が嶋にもたらした結果は過酷でした。戦争の終結が 2 カ月後に迫った 1945 年 6 月、嶋を乗せてシンガポールを出航した海防艦は、アメリカ潜水艦の魚雷攻撃を受けて撃沈し、嶋は 25 年の生涯を終えることになりました。

以後現在まで伝説的な名投手として嶋の名は語り継がれています。その功績を称え 2008 年、嶋は野球殿堂特別表彰を受けました。

今回明治大学ホームカミングデーにおいて嶋清一顕彰行事を実施する一環として、明治大学大学振興課とともに調査を実施しました。

まず向陽高等学校において嶋清一「海草時代」（海草倶楽部編『輝く球史』1943 年 12 月所収）等を閲覧複写し、関係故地を巡見しました。次に甲子園球場史料館にて関係資料の調査を実施しました。

（阿部裕樹）

②戦没学徒兵調査〈2008 年 8 月 19 日（火）～20 日（水） 知覧平和特攻記念館（鹿児島県南九州地知覧町）〉

センターでは 2006 年度から明治大学における学徒出陣と戦没学徒について調査を実施しています。本調査では多くの学徒兵が特攻出撃をしていった知覧にて調査を実施しました。とくに知覧特攻平和会館において明治大学学生の特攻関係資料を閲覧・複写しました。

なお阿部のみ大刀洗平和記念館を見学しました（同館には明治大学関係者の資料は展示されていませんでした）。

（別府昭郎・秋谷紀男・阿部裕樹）

V 利光鶴松・木村礎関係

利光鶴松・木村礎関係資料調査〈2008 年 7 月 8 日（火）～11 日（金） 日出町観光協会・萬里図書館・致道館・帆足萬里、亮吉生誕の地（以上、大分県速見郡日出町）・蔵春園（福岡県豊前市）・福澤諭吉旧宅（大分県中津市）・咸宜園（同日田市）・廣瀬資料館（同日田市）・長生園（同日田市）・わさだ行政センター、わさだ公民館等（同大分市植田地区）・市地区（同市地区）・内藤記念館・延岡市立図書館（以上、宮崎県延岡市）〉



利光鶴松

校友利光鶴松（1863-1945）の関係故地と、現在センター共同研究を実施している元学長木村礎（1924-2004）の資料調査地（宮崎県延岡市）を追跡調査しました。

利光は明治法律学校に学び、弁護士として活動した後、東京市会議員・衆議院議員として活躍しました。

また小田急電鉄の前身会社を創立するなど、財界において広く活動したことで知られています。

木村は明治大学専門部文科・東京文理科大学国史学科を卒業後、明治大学文学部において日本近世史を講じました。木村は調査対象の村々を徹底的に歩いて資料を渉猟する調査法を確立させました。悉皆調査を通して近代以前の基底社会である村落の様相を浮かび上がらせていく木村の手法は、戦後日本歴史学における村落調査に大きな影響を与えました。木村は 1988 年には明治大学学長に就任しています。

本調査ではまず利光の関係故地調査を実施しました。最初に利光が幼少を過ごした九州地方および大分における教育の実態を知るために、日出町観光協会・萬里図書館・致道館・帆足萬里、亮吉生誕の地（以上、大分県速見郡日出町）・蔵春園（福岡県豊前市）・福澤諭吉旧宅（大分県中津市）・咸宜園（同日田市）・廣瀬資料館（同日田市）・長生園（同日田市）を訪ねました。

その後、利光が幼少時を過ごした大分市植田地区において巡見調査を実施しました。その結果、利光関係資料を多量に所蔵する縁戚のお宅を発見することができました。今回は資料を十分に確認する時間がなかったので、綿密な調査は来年度以降の課題となりました。その他利光が幼少時に通った学校の跡地を確定する調査や墓地調査を行いました。

次に木村が資料調査を実施した宮崎県延岡市内の各所を巡見調査しました。木村が同地を調査する契機は 1963 年、明治大学が日向国延岡の譜代大名だった内藤家文書を入手したことに始まります。木村は教え子とともに膨大な同家文書の整理にあたりました。

目録作成の目処がついた 1965 (昭和 40) 年 8 月、木村をはじめ 36 名は 10 日間にわたり延岡・高千穂・別府の内藤藩領村方史料の現地合同調査を実施しました。

今回は木村が調査をした際の関係資料や情報を収集することを目的として、内藤記念

館 (宮崎県延岡市) を訪ねました。記念館館長渡邊博史氏 (校友)、学芸員増田豪氏らから、木村の合同調査について多くの情報を得ることができました。その後延岡市立図書館を訪ね、1965 年の諸新聞を閲覧し、調査に関する記事が掲載されている「夕刊向洋」(1965 年 8 月 30 日付)などを複写しました。



木村 礎

(鈴木秀幸)

VI 山村一郎関係 (2009 年 1 月 15 日 (木) 狛江市泉龍寺 (山村家墓地))

山村一郎は、1912 (明治 45) 年明治大学に入学後硬式野球部に所属し活躍した人物です。在学中にはアメリカ遠征などを経験し、卒業後は台湾総督府・台湾製糖に勤務しました。以後没するまで野球部の有力 OB として大学と関係を保ちました。

今回の調査では山村旧蔵品のなかの野球部関係資料 (当時の野球部写真・記念ボール等) を調査しました。これらの資料は山村の妹で生物学者である八重子の資料から発見されました。その資料整理にあたっている稲葉和也氏 (八重子の会代表)、尾澤千鶴子氏 (八重子の会) から本学教学企画部長を通して情報提供して頂いたものです。

(鈴木秀幸・阿部裕樹)

VII 学内資料関係

①富士吉田グラウンド内用地建立石碑調査 (2008

年 7 月 2 日 (水) 富士吉田市上吉田)

明治大学が富士吉田市に所有していた農学部農場・グラウンド及び寮の土地を売却するにあたり、その敷地に建立されている碑の調査を実施しました。敷地内に碑は二つあり、その一つが「仙崎主将留魂之碑」です。富士吉田用地は 1928 (昭和 3 年) の開設当初からグラウンドとして使用されていました。この碑は 1938 (昭和 13) 年 8 月 22 日、ラグビー部の同地合宿にて、当時の仙崎弘治主将がスクラム練習中に事故負傷し、のち死去したことを悼んで建立されたものです。碑文が摩滅していたため、確定はできませんが、恐らく事故翌年の 1939 年に建立されたと推定されます。本体は高 1100×巾 950×奥行 240、台座は高 240×巾 1750×奥行 500 (mm) です。なお調査にあたっては『明治大学体育会ラグビー部部史』(1988 年)および『駿台新報』の 1938 年記事を参照しました。

もう一つが「動物慰霊之碑」です。これは農学部における実験等により死んだ動物を慰霊するため 1983 年 3 月に建立されたものです。本体は高 1820×巾 890×奥行 300、台座は高 520×巾 1700×奥行 1250 (mm) です。

(鈴木秀幸)

②学内資料収集について

センターでは近年強く叫ばれているようになってきた情報公開や非現用文書一括管理の潮流への対応も進め、学内資料の調査・収集も積極的に行っています。2008 年度は、教育運営グループ、入学センターグループ、理工学部事務室、校友グループ、総務グループから多数の資料が移管されました。センターでは必要な資料を選別後、目録を作成して保存し、将来の利用に備えています。

(大学史資料センター)

情報・資料のご提供について(お願い)

明治大学史に関する資料をひろく収集しております。どのようなことでも結構ですので、センター事務局(03-3296-4329・4085)までお気軽に御連絡ください。頂いた情報・資料は整理して永く保存し、将来の明治大学史のために活用します。

——大学史資料センター近刊案内——

大学史紀要第13号 明治大学人権派弁護士研究 II 山崎今朝弥・布施辰治研究 (A5判並



製 381頁 頒価 800円)

明治法律学校・明治大学を卒業し、人権派弁護士として活動した人々の事績を研究する、明治大学人権派弁護士研究会の成果第二弾！

〈目次〉山崎今朝弥の修学時代／山崎今朝弥と郷土／山崎今朝弥年譜（稿）／小作権の本質をめぐる布施辰治の法廷弁論／借家人同盟の演説会ビラにみる関東大震災後の布施辰治の活動／布施辰治における小作争議戦術と「本人主義」／人権派弁護士たちが在学当時の明治法律学校 ほか

好評発売中!!



明治大学史資料センター監修『布施辰治著作集』(全16巻 別巻1)

ゆまに書房刊(03-5296-0491)

第Ⅰ期 全8巻揃定価 192,150円(税込)

第Ⅱ期 全8巻揃定価 177,450円(税込)

好評既刊!!



明治大学史資料センター編『尾佐竹猛研究』

日本経済評論社刊(03-3230-1661)

4,725円(税込)

* 上記書籍の購入等のお問い合わせは出版社まで直接お願いいたします。

大学史資料センターグループ報告第30集 大学史活動 (B5判並製 148頁 頒価 500円)

特集 大学史活動の広まり・深まり



大学史とその資料を用いた研究・実践報告!!

〈目次〉大学史活動の広まり・深まり／大学史資料における図書資料について／私立大学予科制度とその実態に関する予備的考察／第二回明治大学史資料センター企画展 モノクロ時代の明治大学／明治大学の規則・学則②／明治大学史資料センター閲覧室 閉架図書目録 ほか

ニュースレター 明治大学史 vol.6 URL <http://www.meiji.ac.jp/history/>

発行日 2009年3月31日

編集・発行 明治大学史資料センターグループ

住所 101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

電話 03-3296-4329・4085 FAX 03-3296-4086

E-mail history@mics.meiji.ac.jp